

日本ビジネス実務学会

第 23 号中国・四国ブロック会報

第 23 号

2010 年 4 月 30 日

2009 年度の 中国・四国ブロック活動を終えて

中国・四国ブロックリーダー
山野 邦子

第 26 回ブロック研究会が、8 月 29 日(土)・30 日(日)の 2 日間、倉敷市の川崎医療福祉大学を会場に、今林宏典先生をはじめとして川崎医療福祉大学の諸先生方のお世話により、大変充実した研究会が開催されました。研究会は 29 名の参加者を得て、総会に続き 5 件の学生プレゼンテーション発表、10 件の個人研究発表が行われ、盛会裏に終えることができました。また、恒例の懇親会はキャンパスの近くにある居酒屋で催され、和やかな雰囲気の中で、参加者は文字通りひざを突き合わせて有意義な交流の一時を過ごすことができました。このたびの研究会の運営にご協力くださいました諸先生方に心から感謝申し上げます。

さて、今年度はブロック運営委員が一部交代となり新体制で運営させていただきます。4 年間の任期を終えられました 3 人の運営委員の先生方には大変お世話になりました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

ところで、今回の研究会では、諸般の事情で割愛されていた個人研究発表での質疑応答の時間が確保され、また、発表要旨集が事前に準備されました。さらに、新しく医療の分野での研究発表や若い研究者による意欲的な発表が加わりました。個人研究発表では活発な質疑応答がなされ、大変充実した研究会となりました。昨今のビジネス教育では多様化する学生と向き合う教育現場での諸問題が浮き彫りにされています。来年度の全国大会の統一テーマは「ビジネス実務教育と初年次教育」が取り上げられました。これらの認識をもとに様々な角度からの研究が期待されます。今後もこのブロック研究会が一層活力に溢れた知的交流の場となるよう、会員の皆さまのご支援ご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

なお、学生プレゼンテーション発表会は第 4 回目を迎え、今回は 5 件の参加がありました。いずれの発表も聴衆を惹きつける魅力的で説得力のある内容であり、自分の言葉による優れたプレゼンテーション能力が備わっていました。日頃の学習成果が遺憾なく発揮されたといえましょう。

次回は、高松での開催となります。どうか多数のご発表ご参加、併せて学生プレゼンテーションへのご参加をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

なお、ブロック研究会は 8 月 28 日(土)・29 日(日)に開催の予定です。ご承知のように「瀬戸内国際芸術祭」が 7 月 19 日(海の日)から 10 月 31 日(日)まで催されます。直島、小豆島など周辺の 7 つの島と高松港がその舞台となります。芸術祭も楽しんでいただきたく、皆様のお越しをお待ちしております。

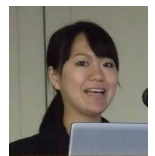
第 4 回 学生プレゼンテーション発表会



発表の皆さんとご指導の先生方



「私の第一歩
—踏み出す勇気から得たもの—」
広島女学院大学 3 年 浅井 友美さん



「ボランティアを終えて
—一人との関わりから得たもの—」
広島女学院大学 3 年 坂山 久恵さん



「大学でビジネス教育を受けて
—田舎者が都会の会社へ就職を決めるまで—」
広島国際大学 4 年 木崎 拓也さん



「私の大学生生活」
高松短期大学 2 年 宮本 真歩さん



「医療秘書学科における学外実習を経験して
—現場から学んだこと—」
川崎医療福祉大学 4 年 信江 沙織里さん

研究会風景



**日本ビジネス実務学会
第26回 中国・四国ブロック研究会
プログラム**

(2009年8月29日・8月30日 於：倉敷市・川崎医療福祉大学)

【8月29日(土)】	
12:30~	受 付
13:00~	開会の挨拶 当番校挨拶・事務連絡 ブロックリーダー 山野 邦子 今林 宏典
13:10~	総 会
第4回 学生プレゼンテーション発表会(発表:5分)	
14:00~	①私の第一歩 一踏み出す勇気から得たもの— 広島女学院大学 生活科学部 生活デザイン・情報学科3年 浅井 友美
14:10~	②ボランティアを終えて 一人との関わりから得たもの— 広島女学院大学 生活科学部 生活デザイン・情報学科3年 坂山 久恵
14:20~	③大学でビジネス教育を受けて 一田舎者が都会の会社へ就職を決めるまで— 広島国際大学 心理科学部 コミュニケーション学科4年 木崎 拓也
14:30~	④私の大学生活 高松短期大学 秘書科2年 宮本 真歩
14:40~	⑤医療秘書学科における学外実習を経験して 一現場から学んだこと— 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科4年 信江 沙織里
14:50~	休 憩 (20分)
研 究 発 表(発表:20分 質疑応答:10分)	
15:10~	①国際生活機能分類(ICF)の概念からみた我が国の労働問題 川崎医療福祉大学大学院 医療福祉マネジメント学研究科博士課程1年 三田 岳彦
15:40~	②異文化理解のためのビジネス研修のあり方 一中国の日系企業の現状を通じて— 広島女学院大学大学院 人間生活学研究科修士課程2年 張 雪梅
16:10~	③社会人基礎力の育成をめざして 一ITパスポートの活用— 聖母女学院短期大学 金岡 敬子
16:40~	④広島県における教員のコミュニケーション教育の現状と方向性 広島国際大学 久次 弘子・角谷 昌則
17:10~	⑤ビジネス実務教育における高大連携のあり方 高松短期大学 佃 昌道・高塚 順子・水口 文吾・山野 邦子
17:40~	事 務 連 絡
17:45~	移 動 (懇親会場へ)
18:10~	懇 親 会 (於：いざか屋一風)

【8月30日(日)】	
09:10~	受 付
研 究 発 表(発表:20分 質疑応答:10分)	
09:30~	⑥情報公開と秘密の保護についての一考察 一F S技術の考え方も含めて— 香川高等専門学校 曾根 康仁
10:00~	⑦チーム医療が病院の組織変革に与える影響に関する研究 一岡山県下の病院を対象とした調査を中心にして— 川崎医療福祉大学 山本 智子
10:30~	休 憩 (15分)
10:45~	⑧ビジネスコミュニケーション 山陽学園大学 川端 淑子
11:15~	⑨大学におけるパーソナル・ファイナンス教育 一ケースメソッド導入の試み— 高松大学 鈴江 一恵
11:45~	⑩キャリア・デザインの本質的課題 一論理的思考形成と理論化— 川崎医療福祉大学 今林 宏典
12:20~	閉会の挨拶 次期当番校

国際生活機能分類 (ICF) の概念からみた
我が国の労働問題

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉マネジメント学研究所
博士課程 1年 三田 岳彦



近年、我が国では労働市場や社会保障制度の変化により、非正規雇用や失業等の問題が顕在化してきている。このような中、さまざまな雇用・能力開発等の支援施策が展開されているが、一定の成果を示しているとは言い難い。国際的には、雇用形態と精神疾患や循環器疾患等の罹患率との関連性が指摘されており、これらの問題と心身の健康との関わりについても注目すべきである。また、企業等、雇用側の環境整備も推進されるべきである。すなわち、労働問題の改善には個人の能力開発に合わせて、労働環境の整備や健康に対する配慮が不可欠である。そして、これらの課題に対して具体的な対策を検討するためには、まず、労働者（失業者も含む）個々の実態を彼らを取り巻く環境も含め総合的に理解する必要がある。

このような実態理解を促進するツールとして国際生活機能分類 (ICF) の有用性が期待されている。ICF はすべての人間の状況を①心身機能、②生活活動、③社会参加、という3つのレベルとそれらを取り巻く物的・社会的環境を含め、多面的にとらえる概念枠組み・分類・評価法であり、2001年に世界保健機関：WHOによって策定された。ICFは医療、保健、福祉、教育、労働、等さまざまな領域での活用を目指し策定され、本報告で取り上げた労働問題への適用も期待されている。そこで、本報告では ICF が示す概念枠組みを用いて、労働者の現状を理解し、介入や支援の検討を試みるための方法を例示した。

以下、失業者 A の状況を事例として ICF の枠組みを用いて考えてみた。
(事例)

A は対人関係が苦手です。これまでフルタイムで職に就いた経験はない。そのため、簡単な軽作業等の短期雇用を繰り返してきた。現在は失業中で、抑うつ状態もあり、求職活動もうまくいっていない。

A の状況を ICF がいう3つのレベルで捉えると、①心身機能：「抑うつ状態」、②生活活動：「対人関係の苦手さ」、③社会参加：「失業」に分類される。このように A の状況を多要素で捉えることで「失業」（社会参加レベル）に影響している「対人関係が苦手さ」（生活活動レベル）やさらにそれをもたらしているかもしれない「抑うつ状態」（心身機能レベル）を同定することができる。また、A の対人関係の苦手さへの理解や配置転換、フレキシブルな勤務形態等の職場環境における配慮の有無によっても状況は大きく変わるかもしれない。

ICF を用いることは、その人の現在の状況の本質的な問題の所在を明らかにする。すなわち、それが環境的な問題か、個人の能力が制限されている問題か、または、これらの要因が複合的に合わさったものなのかを見分けることができる。このようにしてその人の状況を捉えると、現時点でどのような支援や介入が適切で、優先されるべきかを検討することが可能となる。本報告で例示した方法は、何かしら問題を抱えた労働者の実態を多面的に捉え、その問題をより客観的に理解しようとするものであり、より個別的で効果的な介入や支援を立案することに役立つと考える。

異文化理解のためのビジネスの研修のあり方
—中国の日系企業の現状を通じて—

広島女学院大学大学院 人間生活学研究所
生活文化学専攻修士 2年 張 雪梅



世界経済がボーダーレス (Borderless) 化 (境界がないこと) とグローバル (Global) 化 (世界的な観点に立つこと) した現状において、世界各国は経済活動が活発化させようとしている。各国の企業は海外へと進出し、国境を越えて、海外で企業を創設することは珍しいとはいえない。

その際、必ずと言ってよいほど問題となることは、文化の相違とそれともなうコミュニケーション・ギャップである。これが要因となり、現地経営が失敗した事例も多いにもかかわらず、その内容はほとんど報告されていない。

コミュニケーション・ギャップの原因は多種多様であるが、言語や文化、習慣ともなう価値観の相違などが存在していることは間違いがない。つまり、各国のおかれた社会環境に対して、進出する企業ならびに意思決定者の配慮の欠如が問題であるといえる。たとえば、相手国の文化、習慣を無視した考え方や対応は、多くの場合、各国の文化、習慣に基づいた常識を基準としているからだ。自国の常識に基づいた意思決定をすれば、当然のことながら他国では摩擦を生じさせやすい状況となる。しかしながら、各国の利益と経済発展を優先させるため、その差異にも気づかず、あるいは気づいても無視していたと考えられる。無視という行為に対して相手国がいかに考えているか、あるいはどれほど感情的になっていたか、ということは無視し続けることは、いったいどのような意味をもつことなのであるか。この状況に対して、怒りを抑えられない自分が存在している。

他国に入り込み、他国の基準を無視する各国は、他国のことをいつまでも対等な関係に位置させていない。常に、文明の劣った、しかも発展途上の国との認識のもと、経済力ならびに同等な別の力で押さえつけているといっても過言ではない。お互いを深く理解するうえでは欠かせないにもかかわらず、適切な対策を打ってはいないため、ビジネスにおけるトラブルは絶えないのが現状である。

私は、まず日本と中国の文化を比較し、人間の考え方、価値観、人生観、ならびに世界観などの差異を検討したいと思っている。また、日本と中国の交流によるコミュニケーション・ギャップだけではなく、お互いの異文化理解の不足を感じてきているので、異文化コミュニケーションにおける問題点を明らかにしたいと考えている。

社会人基礎力の育成をめざして —ITパスポートの活用—

聖母女学院短期大学 金岡 敬子



独立行政法人情報処理推進機構が、平成21年4月から新たにITに関する基礎知識を測る国家試験「ITパスポート試験」をスタートさせた。この試験は、業種・職種を問わずあらゆる企業や組織において必要とされるITに関する基礎知識を活用できる人材の育成をめざしている。

発表では、今年4月からこの試験内容を情報関連の授業で活用し、主体的・計画的に学ぶ機会を与え、資格取得を希望する学生には本格的に指導をおこなっている事例について報告をした。

数年前までは、短期大学に入学してくる学生のほとんどが、パソコンの操作ができること、そしてWordやExcelの上級資格を在学中に取得しておくことで少しでも就職活動に役立つ状況であった。しかし、現在は操作方法だけではなく情報分野全般の幅広い知識と技術を取得しておくことが社会人として必要となってきた。

そこで、ITパスポート試験がスタートした今年、社会で求められる資格を取得できる機会を活かすため、関連する科目においてITパスポートの試験内容についても学ぶことができるように工夫をしている。さらに、検定試験に向けて意欲的に授業に取り組む姿勢を育成するための環境づくりにも取り組んでいる。

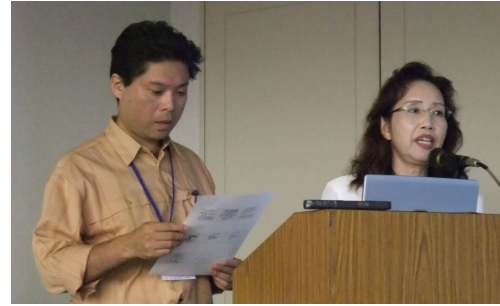
現在短期大学に入学してくる女子学生の大半は、①入学以前には、あまり資格試験に挑戦したことがない②自信がないため自ら積極的に資格取得に挑戦しようとし、さらに③どのような資格に挑戦してよいかわからないなど、資格を取得することに対してあまり積極的ではない状況であった。

授業では、学生が努力をすることで資格が取得できることを体験してもらうため、学校で受検できる検定について多くの情報を提供し、各自のレベルに合わせた検定試験に挑戦させている。検定試験でよい結果を出すことができれば自信に繋がる。その結果、学生はさらに現在の自分の力より一段上の目標設定をすることができるようになる。このことを繰り返すことで、社会で必要とされる資格取得にも自ら挑戦しようという意欲が湧いてくる。

最終的には、2年間という短い学生生活の中で、主体性を持って計画的に学び続けること、そして自分の意思で国家資格にも挑戦し、よい結果を出すことができるようになることが目標である。

広島県における 教員のコミュニケーション教育の現状と方向性

広島国際大学 久次 弘子・角谷 昌則



ここ数年、文部科学省は日本の学校教育の目標として、「生きる力」の育成を掲げている。この教育

目標は、コミュニケーション能力の涵養とも密接に関わっている。例えば国語や外国語に関し、小・中・高すべての学習指導要領において、「伝え合う力を高める」であるとか、あるいは「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」ことや、「コミュニケーション能力」を「養う」ことが明文規定されている。

こうした中、広島県では「ことばの教育」、「キャリア教育」、「食育」を3本柱に教育を推進している。この内、特に前2者においてコミュニケーション能力の問題が深く関わってくる。すなわち、「ことばの教育」については、広島県では児童・生徒の①論理的思考力、②コミュニケーション能力、③豊かな言葉で伝える力の育成を目指す、などの施策を展開している。加えて、「キャリア教育」のキャリアというものが、「生涯・個人の人生とその生き方そのものと、その表現」（宮城、2002）であるならば、コミュニケーション能力の育成は、そうした「キャリア教育」の一環としても把握されよう。

広島県の学校教員は、こうした教育に意欲的に取り組むことが求められている。例えば、子ども達を地域社会の中に入れ、そこで地域の様々な活動を体験させることで、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成・向上を図るなど、子ども達の思考力や表現力を育てる機会を仕掛けることが必要である。子ども達が、様々な体験を通じてソーシャル・スキルを獲得することは、取りも直さず文部科学省が提示する「生きる力」の育成にも繋がってくるのである。

しかし、そうした学校教員達の側にコミュニケーション能力上の課題が幾つか見受けられる。1つに、喜怒哀楽に代表される様々な感情の表現に関し、教員には共通する得手・不得手が観察される。例えば、幸せ、驚き、嬉しさといった表現は得意だが、悲しさ、恐怖、あるいは「よしやるぞ」という意気込みの表現が苦手という教員が多いと思われる。あるいは、児童・生徒に対して指示・指導が多すぎ、コミュニケーションが一方通行になりがちで教員も少なからず見受けられる。

感情表現の偏りやコミュニケーションの方向性の問題は、まず教員養成・研修において表現力や表現技法の養成といった形で対策が講じられよう。しかしその一方で、教員自身が子どもの手本としたくなるような大人であるとか、豊かなソーシャル・スキルをもっていることが必要であると観念されるのではないだろうか。これは学校教員こそが、まずは「生きる力」を身につけるべく、自己を練磨する機会を必要としていると考えられる。そうした「教員の生きる力」の養成や獲得が可能になる研修や条件整備が、今求められているのである。

ビジネス実務教育における高大連携のあり方

高松短期大学

佃 昌道 ・ 高塚 順子
水口 文吾 ・ 山野 邦子



今回は、高等学校課程におけるビジネス実務の学習内容と高等教育におけるビジネス実務教育との関係について検討をおこない、高等学校及び大学でのビジネス実務教育の位置づけと連携について考察をおこなった。

1999年に「初等教育と高等教育の接続について」中教審に答申され、高大連携は様々な形で実施されてきた。この高大連携

を方法で分類すると、1. 「出前講義」「出前授業」など高校に出向いての講義や模擬授業、2. 高校生を科目等履修生や聴講生として受入れ、学修成果を高校や大学の単位として認定するもの、3. オープンキャンパスや公開授業、特別講義などへの高校生の参加、などが挙げられる。

教育制度においては、平成18年に教育基本法・学校教育法・私学法が改正され、平成20年には教育振興基本計画が策定された。加えて、学校教育法施行規則の一部改正に伴い、高等学校学習指導要領の一部変更がおこなわれ、商業科の指導要領の科目に「ビジネス実務」が設定された。

ビジネス実務は、旧科目「英語実務」と「商業技術」を整理統合した新たな科目として開設され、教科の目標を「ビジネス実務に関する知識と技術を習得させ、ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や業務の合理化の重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てる。」としている。内容は(1) オフィス実務では、①企業の組織と仕事、②ビジネスマナーとコミュニケーション、③オフィス実務と情報化、④税の申告と納付、(2) ビジネスと珠算では、①計算の基礎、②珠算、③暗算、(3) ビジネス英語では、①国際化とコミュニケーション、②ビジネスの会話、③ビジネスの文書となっている。

この改正で特に注目される点は「オフィス実務」及び「ビジネス英語」の内容については、本学会で今まで行ってきたビジネス実務能力育成のための教育内容との関係が大きいことが顕著となったことである。

また、専門高校等における職業教育の推進や、高等学校教育と大学教育の接続の円滑化などの教育振興基本計画に定められた項目とビジネス実務教育研究のテーマ設定は大変重要な課題といえる。

加えて、実社会における商業実務や貿易実務と呼ばれていた内容は、グローバル社会の進展と共にビジネスをどう展開していくかという観点のアプローチとなり、呼び方も「ビジネス実務」というようになっていく。(JETROにおいて)

以上の3点から、高等学校、大学、実社会の三者が協力してビジネス実務教育の研究をおこなうことが大変重要であり、学習指導要領が改訂される高等学校の実態調査や教授法の研究は急務な課題と考える。

今後は、専門高校や専門学科を中心に実態調査をおこなうと共に、大学教育への円滑な接続がおこなえる方法について高校現場の教員と共に検討をおこなう。

情報公開と秘密の保護についての一考察

—FS技術の考え方も含めて—

香川高等専門学校 曾根 康仁



1. 現状分析

情報公開がない場合、モラルハザードという怠け心が働くときがあり、不正が起こることが少なくないのである。ところが、情報公開をしないで秘密を保護するということが重視される場合もある。これは秘密的な業務等において顕著に見られるのである。

2. 分析手法

分析を行うための一つの手法として、経済学におけるゲーム理論、特にその中の囚人のジレンマという考え方を切り口として分析を行ってみることにする。

ところで、一般に個人合理性 > 全体合理性となると囚人のジレンマによって、二者(AとB)にとって不利な状況を選択することになる。

3. 事例

社会における公開と非公開についての問題点等を明らかにし、その処方のための手がかりを考えるために次の事例がある。●不正表示の問題 ●成績評価 ●インフルエンザ対策

4. 処方の一つとしてのFS技術

本来は、二者(AとB)における利害の対立がある場合もない場合も協調関係が成り立つことが重要であると考えられる。しかし、個人合理性 > 全体合理性となる状況が起きると、囚人のジレンマの状況を示す場合が見られるようになる。これは、情報公開をしなければならない立場であるのに、情報公開をしないときや、秘密の保護を行わなければならない立場であるのに、情報公開をしたときに顕著に見られるものであると推察する。

そこで、このような個人合理性 > 全体合理性に起因する囚人のジレンマが働かないようにする一つの処方として、発表者の研究内容であるFS技術がある。

FS技術は、経済学のネットワーク外部効果に「早く」という概念を取り入れたものである。ネットワーク外部効果は、商品やサービスを多くの人が選択すると、それらの人の利便性が高まるというものである。したがって、FS技術を先述の内容に適用すれば、全体合理性 > 個人合理性である協調的な行動(公正な情報公開, 互いに信頼感を持った成績評価, 思いやりを持ったインフルエンザ対策行動)を多くの人が選択すればするほど、それらの人の利便性が高まるということである。さらにFS技術では、早くその行動を取ることを選択した人に対して更なる利便性を高める効果を加味しているのである。もちろん、これらの選択においては強制等をかけるものでなく、自主的な選択に委ねられている。したがって、FS技術は、囚人のジレンマが働かないようにする一つの処方として検討できるのではないかと考えているのである。

チーム医療が病院の組織変革に与える 影響に関する研究 —岡山県下の病院を対象とした調査を中心にして—

川崎医療福祉大学 山本 智子



I. 研究の課題

今日、日本の病院においては、少子高齢化、医療技術の革新、あるいは医療費抑制等により経営環境が大きく変化している。そのため、今日の病院においては、これらの変化に柔軟に対応し、さらには、安全で質の高い医療を効率的に提供できる組織へと変革し

ていくことが求められている。その施策の1つが、導入の盛んなチーム医療である。

しかし、これらのチーム医療が、組織変革にどのような影響をどの程度与えているかは十分には明らかにされていない。

そこで、本研究では、チーム医療に着目し、チーム医療と病院の組織変革の関連性について、実証的に明らかにする。

本研究の課題は、次の3点である。第1に病院のチーム医療の実態を明らかにする。第2に、チーム医療がメンバーの意識や行動に与える影響を明らかにする。第3に、チーム医療が組織の成果に与える影響を明らかにすることで

II. 研究の概要

本研究では、上記の課題を明らかにするために文献調査および病院での実証調査を行った。実証調査は、岡山県下の病院を対象として、アンケート調査およびインタビュー調査を行った。

なお、今回はこれらの調査のうち、アンケート調査の結果について報告する。

III. 研究の結論

本研究の結論は、次のとおりである。

- (1) チーム医療は、2000年代から盛んになり、医療安全対策、褥瘡対策、感染防止対策、栄養管理チーム等が設置されている。
- (2) チーム医療は、そのメンバーに、診療の質、診療の安全性への意識や、メンバー同士の情報交換へ影響を与えている。
- (3) チーム医療は、収益へ直結する成果より、職場内の仕事改革や組織内学習への成果へ、影響を与えている。

IV. 残された研究の課題

本研究の今後の課題は、次のとおりである。

- (1) 今回はメンバーの意識や行動の変化を、管理者の意識によって測定したが、調査の精度を上げるために、メンバー自身を対象とした調査を行って測定する必要がある。
- (2) チーム医療がメンバーの意識や行動を変えるメカニズムを解明する必要がある。

大学におけるパーソナル・ファイナンス教育 —ケースメソッド導入の試み—

高松大学 鈴江 一恵



近年、経済金融環境、人口構造及び個人のライフスタイル等の変化に伴い、パーソナル・ファイナンス（以下、PF）のあり方が問われる時代となっている。このような時代的要請を踏まえてPF教育においては、個人のライフプランを実現するために、情報を収集し、合理的に行動する能力を養成していくことが求められる。

大学におけるPF教育については、学生の将来の生活設計やキャリア開発および対人への対応力育成という点で有用とされ、ファイナンシャルプランナーの資格取得支援としても実施されることが多い。しかし、PF教育において一方的な情報提供のみを行えば、学生を不合理な行動へと牽引する可能性も否定できない。学生の主体性を養うとともに、将来の生活に興味をもたせ、ライフプランの実現に資する教育手法が求められると考える。

そこで、本研究では、大学におけるPF教育の手法として、発表者が企業研修で取り入れてきたケースメソッドの導入を検討した。これまで、一つの解へと導くケーススタディを実施することが多かったが、PF教育の目的を達成するために、多様な解を考えさせることを重視し、ケースメソッドの導入を試みた。

ケース教材については、実際の相談事例をもとに学生が社会経済の動きと将来の生活に興味をもてるような今日的话题を取り入れ、大学卒業後のライフステージごとに作成し、疑似体験の機会を与えた。事前にケース教材を配布し、レポートを提出させた。ケースメソッド実施当日は、学生の発言はすべて板書し、積極的な参加を促した。発言内容が板書されることによって発言価値を見出し、他の授業で習得してきた知識も総動員して有機的関連性を発見している様子が観察された。伝えられないもどかしさから、テキストを参照するなど知識欲が醸成されている様子もうかがえた。発言が滞った頃にグループ討議を設け、学生間で意見交換をさせた。これにより、新たな発見や自信をもたせ、発表しやすい環境を作り出すことができた。討議の終盤には、学生の体験談が披露されるなど現実感の共有にも成功した。アンケート結果からも、知識の定着や知識欲の醸成はもとより、多様性を受け入れつつ、主体性、分析力、動体認識力の必要性を認識している回答が得られた。

大学におけるPF教育へのケースメソッドの導入は、限定した情報をもたらす不合理な行動を回避させ、ライフプランの多様性の認識や自ら課題の解決策を見出していく点で有効であることが示唆された。しかし、学生の発言内容は、断片的なものであったため、自由な討議を促しながらも発言を深化させるためのファシリテーションが求められる。また、PF教育においては、一部の学生の発言による思考誘導を避けるためにも一定の情報提供後の実施が効果的であると考えられるが、限られた授業回数においては、その実施時期も課題となる。これらについては、今後、検討を重ねていくこととする。

キャリア・デザインの本質的課題

— 論理的思考形成と理論化 —

川崎医療福祉大学 今林 宏典



キャリア・デザイン (career design) の研究は、既に日本キャリア・デザイン学会をはじめ本学会等々の各学会で論じられてきている。しかし、基礎研究としての「本質的課題」の探究が浅いように思える。ここでいう本質的課題とは、実際のキャリア事象を捉える研究に対して、そこで生じている事象の根幹にあるものを「理論的裏付け」を

もって明確に押さえてきたか否かという「本質」探究への希薄さである。本学会においては数多くの潜在的課題が散在する。キャリア・デザインという用語は、キャリアとデザインが結合した造語だが、これまでキャリアの用語を介して語られる以前は「成り行き的な生き方」というイメージがある。しかし、そこにデザインという用語が付されたことにより内容は一変する。つまり、「計画的な生き方」への能動的行為によって人生は主体的に生きようとする動動的イメージに変わる。

そこで、本報告では、基礎的研究とその理論化について説くものである。筆者は、キャリア・デザイン事象の研究というのは、「人間が環境に適応 (適合) するために、どのような個人戦略を獲得して生きていくかを課題とした研究である」と解している。その意味からキャリア・デザインは大きな命題を担っている。このことから、「キャリア・デザインは基本的には個人戦略を創り出す方途の探究」と解せられる。個人戦略とは、直面する環境に対し個人が適応するために必要な能力 (その道の専門的知識や高度な技能) を備え適合するための理論武装である。発揮の場はすなわち働く場 (職場=組織) であり、環境適合することとは個人が組織に適応することであって、「個人戦略を許容する組織は組織力を高める可能性」を持つので

ある。つまり、個人の視点に立てば、組織の中で個人自らが培った能力や技能を発揮することは勿論、その対照は組織の視点となる。そこでは、個人を尊重する組織の力量の程度が個人の潜在的な能力を引き出し組織力へと転化する。したがって、「キャリア・デザインは組織戦略を創り出す方途の探究」でもあり、「個人戦略と組織戦略を創り出す方途の探究」といえる。これがキャリア・デザイン概念であると、筆者は考えている。

こうした命題を解明するのに、学術的には学際的・複合的研究が必要になる。各様の領域・分野からの援用に依らねば事象の解明は難しい。例示として、発達心理学の知見はキャリアの概念に広がりを与えてきた。すなわち発達心理学は、パーソナリティ心理学を含め既に人間の発達段階という観点からキャリア用語を使用し論じてきたものであり基礎的研究となる。また、社会的自己の観点からの研究となれば、社会心理学である。こうした学問の知見を借りて基礎的研究をすすめる、キャリア論の経緯を理解するといった研究を行ったうえで、「ビジネス現場における個人のキャリア・デザイン」に応用化することが可能となる。あるいは組織で働く人々の行動を概観するには、組織論の知見と心理学の知見を結ぶ組織心理学からのアプローチが求められる。同時に「組織と個人」を研究対象とすれば組織行動科学の援用が求められる。つまり、基礎的研究に重きを置く手法を通じて、各種領域からの理論を借り裏付けて立証化する、そうすることで一過的ではない、一事象の理論化を図ることが可能となる。

したがって、現代のように混沌とした時代であればあるほど、キャリア・デザインの有意性を説く「理論」を探究しなければならない。なぜなら、キャリア・デザインを組み立てるには論理的思考が求められ、その思考性は理論から導かれるものだからである。そして、その理論化の基底には基礎的研究が重要となる。「キャリア・デザインを組み立てる論理的思考」の究明を可能にできるのは理論であるから、「キャリア・デザインの本質的課題」研究は、論理的思考についてどこまで言及できるかに掛かっているといえる。

懇親会風景



高松大学・高松短期大学および秘書科の紹介

高松短期大学 山野 邦子

香川県は、日本で初めて国立公園に指定された瀬戸内海国立公園の中心に位置し、海上には多数の島が点在し、風光はまことに美しいものがあります。面積は全国で最も小さく、平地と山地はおよそ相半ばしています。気候は、四季を通じて温暖少雨で、明るい瀬戸内海の温かな気候に恵まれています。高松大学・高松短期大学は、県庁所在都市である高松市の東側郊外にある春日川のほとりに位置し、キャンパスからは平家物語で有名な屋島を眺望できます。



【本学の沿革】

四国高松学園は、1931（昭和 44）年に高松短期大学児童教育学科を開学、その後、音楽科、秘書科を開設しました。現在、四国高松学園は、高松大学大学院、高松大学（経営学部、発達科学部）、高松短期大学（保育学科、秘書科）から成る大学に発展しました。高松短期大学児童教育学科設立時、本学園の創設者たちは、学生と教員とが互いに信頼の絆でしっかりと結ばれた理想的な大学であらねばならないとの願いを建学の精神に込めました。

【建学の精神】

対話にみちみちた ゆたかな人間教育をめざす大学
自分で考え、自分で行なえる人間づくりをめざす大学
個性をのびし、ルールが守れる人間づくりをめざす大学
理論と実践との接点を開拓する大学

【高松短期大学秘書科の紹介】

高松短期大学秘書科は、1983（昭和 58）年に創設された、全国では数少ない秘書・ビジネス実務教育での伝統と実績を誇る学科です。秘書科の教育目標は「職業人としての幅広い教養と高度なビジネスの専門知識・技能を有し、社会人としての基本的なマナーや品位を備えること」であり、社会の第一線で活躍できる職業人の育成を目指しています。そのため、コミュニケーション力、情報活用力、ビジネスマナーの養成に力を入れるとともに、知識に偏重することなく実習や体験学習などを取り入れて実践的に学べるようにしています。秘書科では2年間の学生生活そのものを社会人基礎教育と位置付けて、様々な取組みをしています。例えば、教育現場におけるマナー教育として全員がスーツで授業に臨むスーツデーや、外部から講師を招いての特別講義や卒業生懇談会等を実施しています。さらに、地域連携として、お遍路さんへのお接待実習や高松まつりへの参加、地域での各種のボランティア活動に参加しています。地域への理解を深め、地域社会に貢献することの重要性を理解し、お互いに協力しながら一つのことを成し遂げることの体験が、将来、職業人としての大切な力となります。また、1年次から所属する研究室制度があり、研究室活動では建学の精神の体現化とともに、2年間の集大成としての卒業研究を仕上げます。その成果は卒業研究発表会で披露されます。さらに、将来設計に沿った専門知識を身につける3つのコースを設置しています。上司の補佐役はもちろん、共に効果的・創造的に仕事ができるビジネス秘書を育成する「ビジネス秘書コース」、従来の秘書教育をベースに、将来医療現場で活躍できる秘書を育成する「医療秘書コース」、地元香川の文化を学び、ホスピタリティ精神を発揮しながら、地域の活性化と発展に貢献できる人材を育成する「観光文化コース」です。それぞれのコースや将来の目標に合わせた資格取得ができるよう、認定資格とカリキュラムを連動させ、きめ細かな指導を行なっています。ほとんどの学生は、上級秘書士を中心に複数の認定資格を取得して卒業します。秘書科卒業生は、地元香川の官公庁や各企業などで一般事務や秘書的業務に従事し、高い評価を得ています。



かすがためき
かすか

Copyright © 2007 Takamatsu University All rights reserved.

本学のマスコットキャラクター



イラスト/童画家 池原昭治 (高松短期大学客員教授)

会 員 各 位

日本ビジネス実務学会
中国・四国ブロック研究会

共同研究助成募集

助成の対象となる共同研究を、以下の要項に則り募集いたします。

募 集 要 項

1. 助 成 目 的 : ビジネス実務に関連があり、今後の発展が期待できる研究を育成する。
2. 助 成 額 : 1 件 5 万円
3. 応 募 資 格 : 2 名以上で行う共同研究であり代表者が日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック研究会の会員であること。また、他から補助を受けていない研究であること。
4. 申 請 用 紙 : 応募者は、所定の申請用紙を郵便または電子メールで、ブロック研究会事務局に請求すること。郵便の場合は、80 円切手を貼った定型の返信用封筒を同封のこと。
5. 申 請 期 限 : 10 月末日必着。
6. 申 請 方 法 : 申請書をブロック研究会事務局宛に郵送すること。
7. 審 査 方 法 : ブロック運営委員会で協議の上採否を決定し、結果を 11 月末日までに申請代表者に通知する。
8. 助 成 金 交 付 : 11 月末日までに助成金を交付する。助成金の決算報告書は、共同研究終了後、速やかにブロック研究会事務局に提出すること。
9. 研 究 成 果 : 助成を受けた者は、次年度のブロック研究会において研究成果を発表すること。
以上

第 26 回 中国・四国ブロック研究会総会概要

2009 年 8 月 29 日 (土) 川崎医療福祉大学にて

- 第 1 議題 2008 年度事業報告
- ・中国・四国ブロック研究会運営委員会
 - 第 1 回 開催日: 2008 年 6 月 8 日 (土)
開催場所: 九州共立大学
 - 第 2 回 開催日: 2008 年 8 月 30 日 (土)
開催場所: ホテルチューリッヒ東方 2001
 - 第 3 回 開催日: 2008 年 8 月 31 日 (日)
開催場所: ホテルチューリッヒ東方 2001
 - ・中国・四国ブロック研究会総会
 - 開催日: 2008 年 8 月 30 日 (土)
開催場所: ホテルチューリッヒ東方 2001
 - ・第 25 回 中国・四国ブロック研究会 (25 周年記念行事)
 - 開催日: 2008 年 8 月 30 日 (土)・31 日 (日)
開催場所: ホテルチューリッヒ東方 2001
 - 参加者: 34 名
 - 発表者: 8 件
 - ・第 3 回 中国・四国ブロック 学生プレゼンテーション発表会
 - 開催日: 2008 年 8 月 30 日 (土)
開催場所: ホテルチューリッヒ東方 2001
 - 発表者: 5 件
 - ・第 22 号 中国・四国ブロック会報の発行
 - 発行日: 2009 年 3 月 31 日 (火)
 - 発行部数: 150 部
- 第 2 議題 2008 年度会計報告
- ・収支計算書の説明ならびに監査報告
2008 年 5 月 1 日から 2009 年 4 月 30 日
- 第 3 議題 2009 年度事業計画
- ・中国・四国ブロック研究会運営委員会
 - 第 1 回 開催日: 2009 年 7 月 28 日
 - 第 2 回 開催日: 2009 年 8 月 29 日 (土)
開催場所: 川崎医療福祉大学
 - 第 3 回 開催日: 2009 年 8 月 30 日 (日)
開催場所: 川崎医療福祉大学
 - ・中国・四国ブロック研究会総会
 - 開催日: 2009 年 8 月 29 日 (土)
開催場所: 川崎医療福祉大学
 - ・第 26 回 中国・四国ブロック研究会
 - 開催日: 2009 年 8 月 29 日 (土)・30 日 (日)
開催場所: 川崎医療福祉大学
 - ・第 4 回 中国・四国ブロック 学生プレゼンテーション発表会
 - 開催日: 2009 年 8 月 29 日 (土)
開催場所: 川崎医療福祉大学
 - ・第 23 号 中国・四国ブロック会報の発行
 - 発行日: 2010 年 1 月 29 日 (金)
 - 発行部数: 150 部
 - ・2009 年度共同研究助成の募集について
- 第 4 議題 2009 年度予算について
- 第 5 議題 学生プレゼンテーション発表会について
- 第 6 議題 次期開催校について
- 第 7 議題 2009・2010 年度ブロック運営委員の選出について
- ・リーダー 山野 邦子 サブリーダー 篠原 収
神戸 康弘 田中 伸代
樋口 紀子 水代 仁
水口 文吾 (事務局)
- 第 8 議題 理事会報告
- ・ホームページの活用について
 - ・第 29 回 (2010 年度) 全国大会 (東京) について
テーマ: ビジネス実務教育と初年次教育について
 - ・第 30 回 (2011 年度) 全国大会開催ブロックについて

第27回 中国・四国ブロック研究会開催について

次回研究会は、香川県で開催いたします。当番校は高松短期大学です。
ぜひ、ご発表、ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

◇開催日：2010年8月28日（土）、29日（日）

◇開催場所：高松短期大学

第5回 学生プレゼンテーション発表会

第5回 学生プレゼンテーション発表会へのご推薦をお願いいたします。

なお、今回は2011年の全国大会の発表者を決定する大会となります。

◇開催日：2010年8月28日（土）

◇開催場所：高松短期大学

◇テーマ：自由 例として「私の大学生活」「大学でのビジネス教育を受けて」等

◇発表：パワーポイント使用 USBメモリー・CD-ROM等持参 発表時間は一人あたり5分

2010年度 ブロック研究会共同研究助成の募集について

助成の対象となる共同研究を募集いたします。申請期限は10月末日となっております。

詳しくは募集要項（p9）をご参照の上ご応募ください。

図書紹介

中国・四国ブロック研究会会員の先生が以下の書籍を出版されましたのでご紹介いたします。

『ねんきんライフプラン 2010年度版』 著者：鈴江一恵 出版社：株式会社経済法令研究会

事務局より

◇日本ビジネス実務学会ホームページ「フォーラム」について

学会ホームページにコミュニティ機能が追加されました。このコミュニティは、フォーラムと呼ばれ、会員同士のコミュニケーションが積極的に図れるようにと、設けられました。

ブロック会員の皆様、ユーザー登録はお済みでしょうか。登録の仕方につきましては全国会報 No.49（2008.9.30発行）に添付されている利用マニュアルをご覧ください。

◇図書紹介募集について

ブロック会員の皆様が最近ご出版の、あるいはご出版予定の書籍等ありましたら、この紙面を使ってご紹介したいと思います。ご紹介いただける場合には、事務局水口（TEL087-841-3255）までご連絡ください。

日本ビジネス実務学会 中国・四国ブロック会報発行事務局

〒761-0194 香川県高松市春日町960番地
高松短期大学内

TEL 087-841-3255

FAX 087-841-3064

編集責任者 山野邦子（高松短期大学）